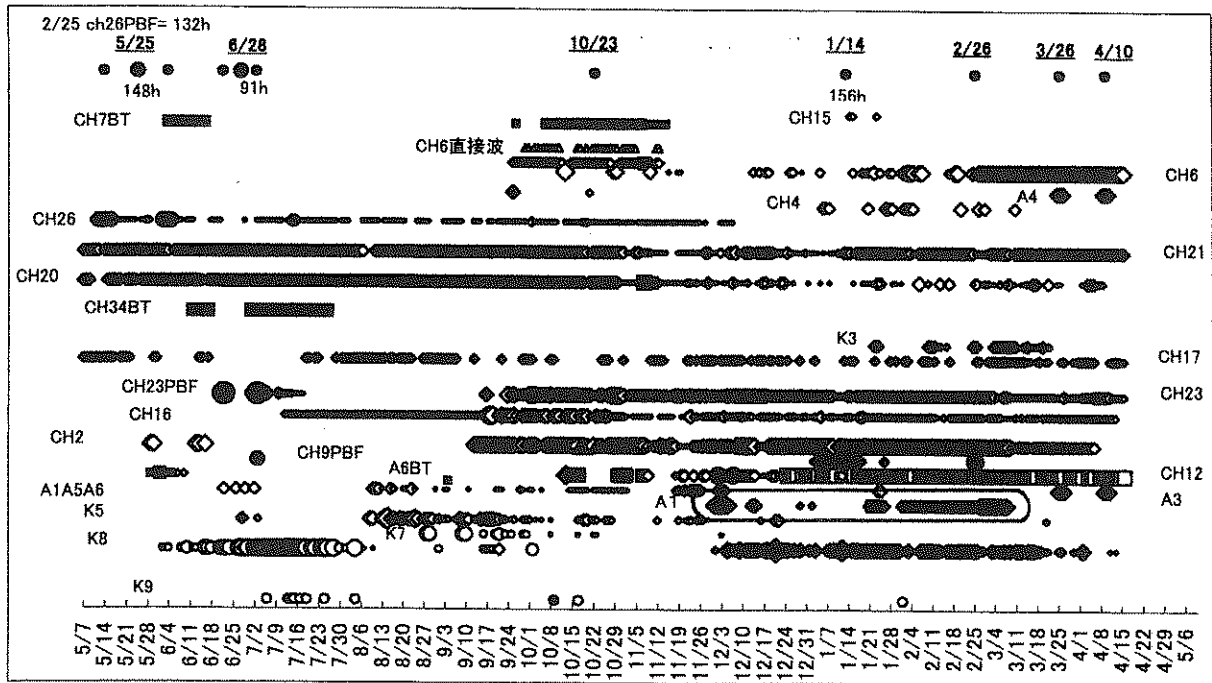
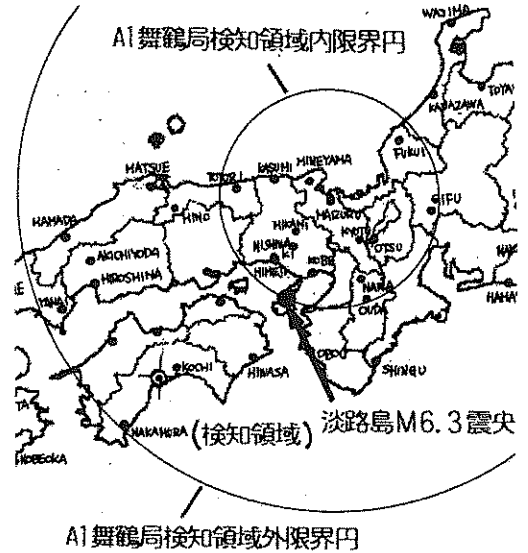
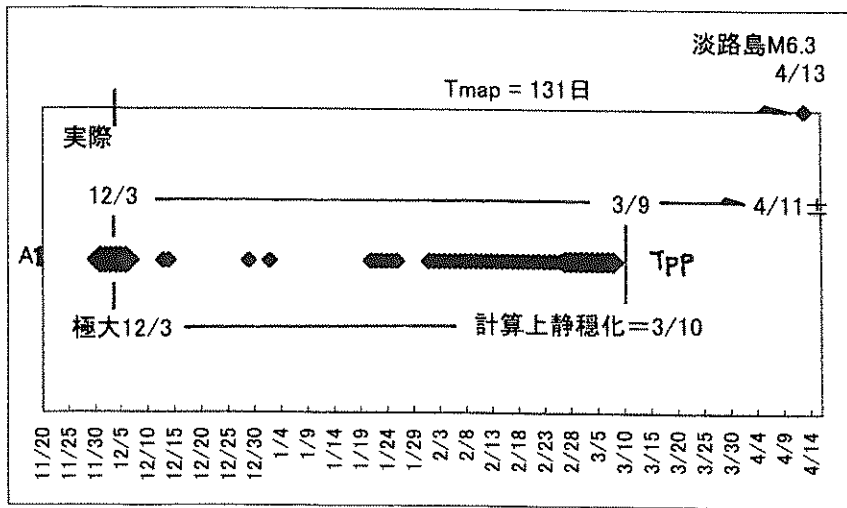


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
 Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

観測報告 No.1778 近畿圏中心領域地殻大型地震推定前兆 続報 と
 4/13 淡路島M6.3地震



高知観測点メンテナンス出張から戻った4/14のNo.2367観測情報で取り急ぎ報告致しましたが、No.1778前兆と4/13発生の淡路島M6.3地震との関係は、前報告のとおり、秋田観測点のA1観測装置の特異状態が、淡路島M6.3前兆と認識されます。

右上図のとおり、A1は舞鶴局100wで四国領域の地震活動の前兆を良好に検知してきた観測装置ですが、今回の淡路島震央領域は内側検知限界付近で、わずかに減衰していたと認識されます。極大は2012年12月03日±で、極大から発生までに要する日数Tmap=131日であったと認識されます。計算上の前兆静穏期(Tpp突入)は、3/10±と計算されますが、実際のA1特異の静穏化は、3/9でした。12/3極大～3/9終息でTmap:Tpp=3.9:1経験則で計算しますと、発生は本年4月11日±が計算できま

す。阪神淡路大震災の1995年の兵庫県南部地震と異なり、今回の震央域は歪み速度の遅い領域で、極大から発生まで数日では無く、長い可能性を記しましたが、調和します。尚、この認識では、計算上の前兆初現は2012年09月23日±と計算されますが、No.1778前兆の中では識別困難です。極大が突然出現するタイプと認識されますが、極大前兆も連続BF(PBF)ではなく、特異のためM6±以上規模としか推定できません。

No.1778前兆の中で、A1の特異の出現開始時期、並びに終息時期がNo.1778前兆の動向から計算推定される各変化時期に合わないことは気づいていましたが、高知局500w影響の可能性も否定できなかったため、No.1778前兆との識別が遅れました。

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

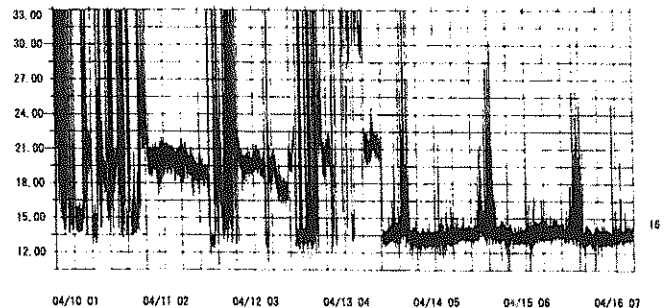
観測報告 No.1778 近畿圏中心領域地殻大型地震推定前兆
CH16, 20, K8 特異状態 4/13終息

2012年10月23日極大～2013年03月12日終息⇔4月29日±
2013年01月24日極大～2013年04月03日終息⇔4月29日±
(今回確認)
2013年02月26日極大～2013年04月13日終息⇔4月29日±

以前から報告のとおり、現在のNo.1778前兆第4ステージの前兆動向から、4月末±発生認識計算が正しい場合は、本年02月26日極大認識に対し、4/13～14±に一部前兆終息静穏化が観測される可能性を報告致しました。本日4/16現在までの観測で、表題のとおり、八ヶ岳のCH16, 20 特異及び、高知観測点K8特異が、4/13午後～夜に終息静穏化し、通常静穏基線に復帰したことが確認できました。右上波形は八ヶ岳のCH16基線ですが、顕著な特異変動が継続していた基線が、4/13の午後14時から通常基線に静穏化した様子が認められます。

本日4/16夕刻現在、継続中のNo.1778関連前兆は、前頁の前兆出現状況図のとおり、CH6, 17, 21, 23の各特異状態とCH12櫛歯前兆のみで、02月頃の12～13観測装置の前兆数から5観測装置の前兆数に激減しています。

日々の観測情報で報告しておりますとおり、その後の極大は3/26と4/10に出現した、秋田観測点のA3とA4の特異状態です。3/26と4/10の極大が別々の極大である場合と、お碗型に両端に出現した極大で、中心=4/2±極大の可能性と2種考えられます



八ヶ岳のCH16基線 特異状態が4/13 14h静穏化

3/26極大の場合=前兆終息時期→4/20±
4/10極大の場合=前兆終息時期→4/24±
お碗型極大で4/2 極大の場合=前兆終息時期→4/22±

が計算できます。いずれにしても、現在の推定4/29±発生となる場合には、4/22±2 頃に前兆終息が観測される可能性が計算されます。4/25±まで観測して、前兆が終息し、静穏化が維持されていることが確認できましたら、No.1778前兆の対応地震は4/29±発生の可能性が高まりますので、ご報告予定です。4/25±時点で前兆継続の場合は、発生時期について再考します。

※FAX配信による地震前兆検知公開実験の観測情報は、平均3日に一度の配信頻度で、日々の観測状況を詳しく公開報告しておりますが、本ページのNo.1778前兆についての続報公開につきましては、前兆終息等が十分に確認できた時点で更新することとしておりますため、ご報告が遅くなりましたこと、深くお詫び申し上げます。

※今回の続報2枚は、No.2368-1/2 No.2368-2/2 実験観測情報として、FAX配信した観測情報の一部を、そのまま一部降載させて頂きました。時間が無いため、お許し戴きたく存じます。

※本頁の下部は、No.1778前兆以外の大型地震の前兆についての報告部ですが、現在ホームページでは、PHP新書「地震予報」に記しましたNo.1778前兆についての続報のみとさせて頂いておりますため、掲載できません。どうかお許し下さい。

※次の続報は4/25過ぎ頃の可能性有